

# キラ 輝っと さきベ

崎辺地区自治協議会だより

No.10 発行日：H29.12.15

事務局：崎辺地区公民館内

場所：佐世保市十郎新町3番7号

☎：(0956) 27-2170

E-mail：[sakibe-ziti@tvs12.jp](mailto:sakibe-ziti@tvs12.jp)

12月

いよいよ今年も残り少なくなり、平成30年を迎えようとしています。4月に発足した自治協議会が計画していた事業も順調に進んでいるようです。今号では、研修事業として実施した「まちづくり視察研修旅行」の様子を中心に伝えします。来年度は、皆さんもぜひご参加ください。

めざそう！ 緑と海に囲まれた  
美しいまち 輝っと「さきベ」

## 「まちづくり」について学んだ 視察研修旅行

今回の「視察研修旅行」の最大のテーマは、【まちづくり】でした。講師は、「長崎さるく」の第一人者 NPO法人長崎ブランドの理事長 桐野耕一氏でした。桐野さんは、大浦地区のまちづくりに関する活動のリーダーとして活躍され、居留地まつりや居留地男性合唱団の中心的な役割を果たされている方です。



渡りぞめ初日に「出島表門橋」を渡る幸運！

## 江戸時代にタイムスリップ

幸運にも研修当日は、完成したばかりの「出島表門橋」を一般客が渡れる初日でした。前日行われた記念式典では、桐野さんが所属する居留地男性合唱団がオランダ皇室や秋篠宮殿下の前で、オランダ国歌を歌われたそうです。表門橋のつくりは現代技術の粋を集約された最高傑作！なんと、橋の出島側は地面に固定されていない「シーソーのようなつくり」なんです。目の前に設計者が…



橋の上を感慨深く一歩一歩進んでいくと、そこには江戸時代の出島が現れました！参加者の皆さんは、説明を聞いた後、思い思いに出島散策を楽しんでおられました。

当時の出島にあった洋館群等を見学した後、旧オランダ商館跡に造られた「出島内外倶楽部」で桐野さんによる「まちづくり講話」が始まりました。



みんな真面目に聞いてます！ 1990年に開催された「長崎旅博」の後、長崎を訪れる観光客数が減少する中、2002年市の観光課観光振興課主幹であった田上富久氏(現長崎市長)から観光振興について相談を受けた桐野さんは、所属していた大浦青年会の活動を中心に「お金はないが、何ができるか？」と考えたそうです。そうやって誕生したのが「長崎さるく」であり、2006年に行われた【長崎さるく博】の提案者となった田上現長崎市長は、企画部統計課長となってからも「さるくガイド」として参加されたそうです。

桐野さんの講話の中で「私たちは何も特別なことをやったのではない。自分たちが住むまちを楽しく活気あるものにするために、みんなで集まって活動しただけ。」と…。ただ大切なのは、何かをやるとうとする時に集まるのではなく、その前からみんな何かで繋がっていることが大切だ！という言葉がとても心に響きました。この言葉が、今でも頭から離れないのは私一人かなあ～。

# いよいよ「居留地さるく」に出発!



講話の後、内外倶楽部で長崎名物「トルコライス」を食べ、いよいよ「長崎さるく」の始まりです。今回は、出島から近いということ

で、「居留地さるく」を行いました。出島を歩いていると、「どこからきんしゃつたど? あん人はガイドの第一人者じゃけん、あんたたちはラッキーやったね。」と、さるくガイドの方から声をかけられました。そうです! 今回のさるくはVIP待遇だったのです。(崎辺は幸せだあ!)

新地の中華街を通り、ランタンまつりの主会場である中央公園を抜けて、いよいよ大浦地区へ! ここから、桐野さんの話がさらに熱っぽくなり、長崎名物「オランダ坂」の歴史を詳しく聞くことができました。(ここで、私たちも少し真面目に学んでみましょう!)



長崎は、鎖国時代の終わり「安政の開国」によってオランダ人や中国人をはじめ、アメリカ・イギリスなどから外国人が訪れるようになり、好んで見晴らしの良い高台に邸宅を構え、東山手および西山手に外国人居留地が形成された。やがて、居留地の人々によって大浦石橋から東山手の英国聖公会堂に至る緩やかな石畳の坂道が築造された。当時の長崎の人々は、欧米諸国の人々をすべて「オランダさん」と呼んで親しんでいたことから、やがて自然に、邸宅に続くレンガ敷きや石畳の坂道を総称して「オランダ坂」と呼ばれるようになったそうです。

風情ある石畳の坂道を上り、1868年に建築された東山手十二番館(重要文化財)に入って、初期洋風建築や宣教師などの歴史を興味深く聞くことができました。歴史的建造物の中で聞く宣教師たちの思想や活動ぶり、活水女子大学の建学にまつわる話、当時の悲恋物語…。参加者全員の心がその時代にタイムスリップしているとき…。**突如として『美しい歌姫』が出現!**



皆さんご存知の蝶々夫人(マダム・バタフライ)に関するエピソードを少し語ってもらい、オペラを熱唱していただきました。なんと、崎辺地区自治協議会研修旅行参加者だけのために…。これもまたVIP待遇!

洋館内に響くソプラノ歌手の心地よい歌声。まさに至福の時間が過ぎせました。歌ってくれたのは、原さとみさん(佐世保市出身)で、居留地男性合唱団や居留地キッズ合唱団などの指導をされている方です。ご自分でもコンサートなどを開催されています。先に記した前日行われた出島表門橋の記念式典では、着物姿で日本国歌「君が代」を一人で歌われた方でもあります。私はこれまで、孔子廟での夜のコンサートや県立美術館でのロビーコンサートなどを鑑賞させていただきました。そのご縁で、**来年1月28日(日)に開催する「新春のつどい」**に出演していただくことが決定しています。もちろん、桐野さんの居留地男性合唱団にも出演していただきます。

思わぬ企画に皆さん驚かれていましたが、歌った後は皆さんと一緒に孔子廟まで歩きながらお話をさせていただきました。原さんにも、感謝・感謝の気持ちでいっぱいです。

時間の関係で残念ながら孔子廟の中には入れませんでした。さまざまな国の文化がまじりあってできた居留地の歴史や文化を少しでも味わうことができたのではないのでしょうか。その後、大浦石橋電停からエレベーターで登った所にある歴史的建造物の南山手27番館(南山手レストハウス)を見学し、長崎特有の坂道を下って、国宝「大浦天主堂」前で「さるく」を終えました。長時間にわたり歩くのはたいへんでしたが、有意義な時間を過ごすことができた「視察研修旅行」となったのではないかと思います。(参加された皆さん、お疲れ様でした。)

